

第1回 蕨市塚越ビジョン策定市民懇談会 議事概要

■日 時 令和8年7月14日（火） 午後7時～午後9時

■場 所 東公民館3階 集会室

■出席者（敬称略）

委 員：上野 梢、野澤 俊夫、宮寄 直子、村田 郷子、鈴木 眞知子、野本 信幸、
町田 純、青木 祥夫、座光寺 剛、福田 力、小松 彩華、貫井 賢治、
河村 浩康、山田 麗子、高橋 義貴

頼高英雄市長

事務局：小柴 正樹（総務部長）、島田 雅也（政策課長）、菊地 雅治（政策課長補佐）、
平野 大地（政策課主事）、藤田 睦子（政策課主事）
岡本 啓太郎（東公民館長）、助石 菜穂子（東公民館事業係長）

■次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 自己紹介
5. 議題
 - （1）会議の公開、傍聴に係る取り決めについて
 - （2）意見交換
 - （3）その他
6. 閉会

■内 容

【開会】

【委嘱状交付】

【市長あいさつ】

【自己紹介】

※自己紹介の発言の中から、塚越ビジョン策定に向けての意見やコメント等を抜粋

委 員：一時期、東公民館の社会教育、市民活動というものは、日本の中でも指折りだった。当時を知る身としては、近年、市民活動が少し寂しくなっていると感じていて、世代交代の時期なのではないかと思っている。塚越ビジョン策定という機をとらえて塚越地区をにぎやかに、お互いが支えあうようなまちづくりをしていきたいと思っている。

- 委員：子どもたちが小学校に入ったタイミングでPTA活動など含め、地域の方とも関わるようになった。昔は合宿通学など活動も盛んで、地域で支え合っていたが、最近では地域で支えることが難しくなり、そもそも市民に求められているものの変化を感じている。また、世代交代が進まない団体が増えてきているのではないかという実感もあり、世代交代や、地域のニーズに合わせた変化ができるようにして、地域を盛り上げるような活動につなげていくことが、塚越ビジョンの策定を機にできたら良いと考えている。
- 委員：生まれて以来、蕨市に住み続けていて、三世代にわたって公民館活動や合宿通学の指導員などで地域に携わってきた。これからの蕨市、塚越地区を次の世代が盛り上げていけるよう、お手伝いができればと思っている。
- 委員：学童の支援員として子どもたちと、民生委員として高齢者の方たちと関わっている。その中で知った塚越の子どもたちや、高齢者の状況など話し合っていければと思っている。
- 委員：日ごろの民生委員としての活動などを通じて感じたことなどを話し合っ、これからの塚越、明るい未来を検討していければと思う。
- 委員：高齢化が進行し、老人福祉センターけやき荘の利用対象年齢である60歳以上の人が多くなったが、利用者は大きく減っている。最近では60歳から老人会の活動をする人は、ほとんどいなくなってしまうと感じている。
- 委員：日本で一番小さく、かつ人口密度が一番高い市であるという地域性をどう生かすか。また、外国籍の人も多い。今後どのように一緒にやっていくかということを考えていきたい。
- 委員：学校の関係では、外国籍の子どもが増えていて、これは塚越が川口や東京に近いことも影響していると思う。今後も増えていくことが見込まれる状況でどうしていくべきかなどについて考えていきたい。
- 委員：役員のなり手、後継者がいないため、子どもが学校を卒業してもPTAを続けている。他の団体でも同じ人が長く続けることで、支えている状態であり、今後はなり手がなくなってしまうのではないかと危惧している。塚越ビジョン策定の機をとらえ、明るいまちづくりにチャレンジしたい。
- 委員：若者世代の視点では、ネットの普及などで、市への関心というものが薄れてきている印象があるが、蕨には良い文化がある。そういったものをどう広めていくべきか、という点を話していきたい。
- 委員：蕨に住んでいると言っても、「どこ？」と言われてしまうことが多いので、もっとみんなにわかってもらえるまちにしていきたい。
- 委員：商店街も、この地域で生まれ育ち、そこで商売をするという人が本当に減った。昔から住んでいる人たちも土地を売却してマンションなどに変わって、そこにテナントが入っても大手のチェーン店ばかりになってしまう。

我々が商店街をどう盛り上げようかと考えていても、そういう店とは考え方が異なるため、なかなかうまくいかない実感がある。ほかの団体と同様、後継者の課題はあるが、そうしたなかで地域での思いをどうつなげていくか考えていきたい。

委員：蕨市は住み心地が良い、落ち着いた静かなまち、それを生かしつつ今後どうしていくかを考えたい。

委員：市内で店舗を経営しており、また、PTAや塚越のイベントにさまざま関わっているの、会議に参加したいと思った。

委員：生まれ育った塚越で魅力あるまちづくりをしたいと思う。

【議題】

※議事については、岡本東公民館長がファシリテーターとして進行

(1) 会議の公開、傍聴に係る取り決めについて

事務局から、会議の公開について概要を説明した。(資料3・4参照)

⇒会議の公開・傍聴に係る取り決めについて、資料3「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」および資料4「塚越ビジョン市民懇談会会議の傍聴について(案)」のとおり取り扱うことで了承した。

また、傍聴の定員は、5人程度とした。

(2) 意見交換

事務局から、「塚越地区の基礎資料」(資料5参照)を説明した。

委員：塚越地区についてまず思うのは、公共施設が少ないということ。しかし、とても大きい市民公園がある。この懇談会では、活気のあるまちを目指していくのか、自然を増やす方向に行くのか、方向性を話し合わないで個別具体の話をして意味がないと感じる。世代によって不便に思う人も満足している人もいる。公共施設が塚越側にない点だけを見て不便ということも言えるし、でも「ぷらっとわらび」のような交通網もあるし、歩いていけるということも言える。私としては、市民公園を中心とした緑が多い地域性や、大きいスーパーなど生活上の利便性といった点に力を入れられれば良いと思う。

委員：事務局からは、塚越の実態の説明をされたが、塚越に住んでいる人たちの間でも意見の乖離があると思う。自分個人の意見とのギャップを感じる部分もある。今後それを縮めていってみんなが納得できるようなビジョンを作っていければ良いと思う。

委員：武南高校や小中学校が密集しているので、文教地区としての姿を目指すという方向性もありではないか。市民公園もあるので緑豊かで教育熱心なまちというのは魅力だと思う。小中学校の統合にあたり公民館も含めて一体的に検討していくのも良いと思う。子どもを中心として人が集まる。学校は地域活性の中心になり得ると思う。

- 委員：蕨は全域が徒歩圏内で、歩いて行こうと思えばどこへでも行ける。塚越の人は線路を超えるのが大変だという意見はよく聞くし、資料でも示されているが、コミュニティバスが充実しているし、歩くこともできる。健康寿命を延ばすことを考えても歩くことは重要だと思う。
- また、単身世帯が多く、子どもたちが増えていない中で、子育てしやすい環境を整えることも大事ではないか。小学校の統合はしない方が地区内で競い合える環境が残る点で良いと思う。単身者が結婚して蕨・塚越に戻ってきてくれると嬉しい。そして子どもが増えれば、子どもたちと出掛ける時に一緒に歩いてみようと考えられる人も増えると思う。
- 委員：西川口駅をよく利用するが、途中の道や緑川などにごみが落ちていることが多く、まちが汚いと感じる。緑や景観のきれいさは若い世代も敏感に反応する。きれいで安心して暮らせる安全なまちであることで、若い世代もここで子育てをしたいと思うのではないか。
- また、外国人がとて多くて、コミュニケーションをとることが難しい。子どもよりも大人とのコミュニケーションに苦戦していたが、ひとつひとつ丁寧に関わることで改善していくこともある。率先して関わっていく姿勢を作ることが必要。塚越ビジョンの中では、これから外国人と共存していくことが欠かせない要素だと思う。
- 委員：意識調査を見ると犯罪の少ない安全なまちを希望する声が多いと感じる。子どもを育てるという意味でも、安心して住めるまちにしていけることが大事だと思う。東公民館建て替えの時は防災に特化したような施設にするのも良いのではないか。安心して住める塚越にしていきたい。
- 委員：市役所の建て替えや再開発など、西口側ばかりで活発な取組が行われているように感じる。塚越は、蕨市の中で、とってつけたようなところで、置いてけぼりになっていると感じる。塚越ビジョンは、塚越に人を呼び込むことができるようなものにしたい。
- 委員：塚越側は、あまり医療施設が充実していないという印象がある。また、公共施設としても、市民会館のホールや北町体育館のような施設もない。東京などでは、狭い面積でも、縦に長い建物の各階にアリーナやプールなどを擁する複合施設がある。蕨も狭いのでそのような工夫が必要だと思う。それから、塚越は外国人、特に小さい子やその親が多いが、いろいろな国の人がいるということをプラスにしていかなければつまらないと思う。町会の行事も同じ人だけがずっとやっている印象があり、さみしくなっているが、いろいろな町会が集まってやるなどの工夫も必要ではないかと思う。
- 委員：外国人比率でいうと蕨は非常に高いが、外国人の絶対数は川口のほうが多い。隣接する川口市からの影響も大きくあるので、それを踏まえた視点も塚越の将来像を作るうえで必要なのではないかと思う。
- 委員：地区外の方から、塚越の商店街ってすごいよねと言われたことがあるので、外から見た塚越についての声を聴くのも良いかなと思う。コロナ禍前の話だが、町会対抗の運動会で盛り上がっていたし、コミュニティスクール、

学校運営協議会も塚越はまとまりがあるから一番初めに設置されたと思っている。こうした塚越の魅力を見直して、発信していくことでそれが伝わっていくと思う。

委員：市民公園を中心としたまちづくりを考えることも良いと思う。住宅街が多く、安全など住みやすさを意識している方が多いので、市民公園を盛り上げていくことが現実的だと思う。市民公園について、年齢層に応じてどう思っているかの分析などもできたら良い。それを踏まえ、年齢層に応じたイベントの企画や健康づくりをやっていけると良いと思う。イベントや国際交流を増やし、発信していけば、子育て世帯などにも伝わるのではないかな。

委員：お祭りなどは、西口の方が大々的に盛り上がっている印象があるので、もっと塚越側も盛り上げてほしい。東公民館の建て替えの際には、大きな体育館もつくって、普段は子どもが遊べたり、スポーツの大会ができたりするような施設になると良い。せつかく近くにある公園も取り込んだ大きな施設にして、屋内で遊べるスペースをつくり、コンサートのようなイベントや行政手続きなど、何でもできる場所になると良いと思う。また、けやき荘は高齢者だけでなく、子どもも使える日を設けるのも良いと思う。

委員：防犯カメラの設置など、安全安心なまちには、コストがかかる。今は、こういった社会的なコストを商店街などが負担しているが、広くみんなで負担する意識が必要ではないか。生命財産が脅かされる状態でのまち・地域の活性化などはない。安全安心なまちであることが軸であると思う。

委員：愛着、住みたいと思う理由では、安全安心、緑が多い、利便性といった項目が多いが、もっと市民の満足度を上げるのであれば、これらの項目はすでに満足度が高いということなので、ほかの項目をアップさせることを考える必要もある。

委員：昔と比べて今は暑くなり、夏に子どもが外で遊ぶのもなかなか難しい。塚越プールも使えないので、市内に季節天候問わず子どもが遊べる場所が必要。また、子どもと年配者が一緒にいられるような場所もあると良い。

委員：外国人が多いので、一緒になって考えていけるようなビジョンを作れたら良い。

ファシリテーター：委員の皆さんから文教地区、市民公園、子育て環境の問題、防犯・防災の課題、外国人問題など、様々なキーワード・要素がでたので、次回の会議において話し合いを進めていきたいと思う。

(3) その他

事務局より、次回の予定などについて説明した。

【閉会】

以上